



計画の進行管理と行政評価



PDCA サイクルと D-OODA ループ

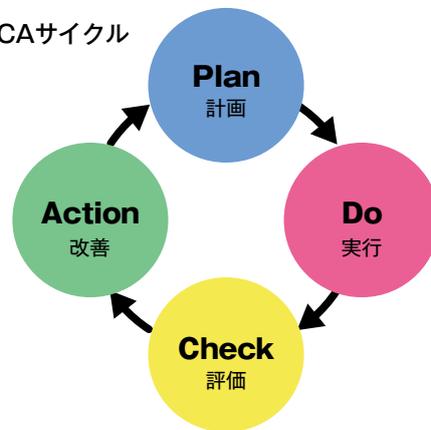
総合計画は、本市の行政経営における最上位計画として、この計画に位置付けられた施策を実行する上で、「まちづくりの指針」となる大切な計画です。計画の実行に当たっては、事業の進捗の把握、成果の検証を行い、その結果を次年度以降に反映していくことが求められ、また、刻々と変化する社会・経済情勢に臨機応変に対応していくためには、現状を分析し、時代の変化に合わせて効果的に政策を実施していくことが重要となります。

このため、行政資源を有効かつ効果的に活用し、効率的な行政を推進するため、PDCA サイクルを回すとともに、社会情勢の変化や多様化する市民のニーズを常に把握し、迅速に対応するため、D-OODA ループを総合計画に取り入れ、時代の変化に合わせた政策を効果的に実施できるよう推進してまいります。

PDCA サイクル

Plan（計画・目標設定）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字をつなげたもので、事業の評価を行い、適宜、見直し・改善を進めるための進捗管理方法として、企業、行政を問わず、広く用いられています。

PDCAサイクル



+ 相互補完的に活用

D-OODA ループ

Observe（観察・情報収集）、Orient（情勢判断・方向付け）、Decide（意思決定）、Act（行動）の頭文字を繋げたOODA ループという概念に、Design（デザイン）を加えた、新しい行動決定ループです。OODA は現場の状況観察を基に、改善策を策定し実行するもの。D-OODA はデザイン（施策）を全体で共有することで、現場とのズレを防ぐことができます。

D-OODAループ

